



「自分で追究 力作が並んだ自由研究」

校長 曾我 泉

この夏休み、2年生以上の学年の宿題に「自由研究」を設定しました。

毎年、しっかりと研究された作品が並ぶのが、西原小学校の力になっています。ご家庭の協力もたくさんあったことでしょう。何よりも、一緒になって研究を楽しんでいる様子が垣間見られることが素晴らしいと思います。自己で追究することの大切さをご理解いただいているからこそ、助言や手伝いであることが伝わってきます。ご理解ありがとうございます。

自由研究として並んだ作品は、問題解決の過程を表現しているものが多くありました。課題に取り組みきっかけから始まり、研究の見通し、さらに実際に取り組んだ様子。取組からわかったことや新たな疑問が生まれたこと、日常との関連、これまでの学習との関連等につながっていました。特に、よく努力している研究の内容は、一度の過程にとどまらず、何度も新たな試みへとつながっていました。研究が、ぐるぐると回っているのです。これはまさに、今年度、本校がねらっている粘り強く取り組む姿です。

夏休み前に示した校長賞の視点は、「サイエンス・テクニカル・エンジニアリング・アート・マスマティック」でした。これは、一つ一つが独立しているものではなく、追究の過程の中で、相互に関連しながら現れてきます。

例えば、6年生の校長賞学年優秀賞の「麺の研究」では、「研究の動機」の中で、調べるきっかけとともに、調べる見通しが記されています。これは、マスマティックの課題解決に向けた思考の流れととらえられます。具体的に「のびる麺」をテーマとし科学的（サイエンス）に、長さ、重さ、太さなどの実験方法を考えました。実験の結果から考察する段階では、表現方法を工夫したり、考えをまとめたり、エンジニアリングの部分が含まれます。実験のまとめでは、写真等視覚的な方法を取り入れたり、計算をしたりとテクニカルな要素が見られました。ところどころに、アートセンスのキャラクターが登場し、大事なポイントをわかりやすく押さえていました。様々な要素が組み合わさりながら研究がすすんでいったことが伝わってきました。その中のサイエンスの視点を、今回は表彰の対象としました。このように、自己の課題の追究の過程で、様々な視点を活用する経験は、今後の活動でも生かされることでしょう。

さらに、夏休み明けには、「自由研究発表会」として、様々な形でプレゼンテーションを行いました。お互いの努力や追究の姿が刺激となります。そして、自分の考えをどう発信していくかが新たな課題となっていくと思います。学校生活で互いの様子を見合う中で学ぶものは多いのです。

授業の中で、発表や伝え合う場面、友達の考えを聞く場面、アプリを使って発信しあう場面などが増えてきています。互いのよさを尊重しながら、よりよく高めていくためにはどうするか、考えながら過ごす毎日です。学びが多様化している今だからこそ、同じ年の友達の考えを尊重し伸ばしていく経験もたくさんさせたいものです。

10月の目標

【生活目標】

協力して仕事を最後までやろう

【保健目標】

けがをしないように気をつけよう
目を大切にしよう

【給食・食生活】

後片付けをきちんとしよう
季節の食べ物を知ろう

